

令和元年度恵庭市の取り組みについて

1. 自主防災組織

自主防災組織とは

地域住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識に基づき自主的に結成する防災組織のことをいいます。恵庭市では、地域防災力の向上を目指し、助成事業などを通じて、自主防災組織の設立や活動の充実にに向けた支援を行っています。

<自主防災組織の状況>

・自主防災組織数及びカバー率の推移（各年度末時点）

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1（予定）
恵庭市組織数	21団体	21団体	24団体	29団体	38団体	39団体	41団体
恵庭市カバー率（※）	51.9%	53.3%	59.7%	66.7%	80.6%	83.0%	85.2%
全道カバー率	50.1%	51.3%	50.6%	54.3%	56.2%	59.7%	未公表
全国カバー率	77.9%	80.0%	81.0%	81.7%	82.7%	83.2%	未公表

※ カバー率＝「自主防災組織の活動範囲にある世帯数」／「全世帯数」

・令和2年設立予定の町内会（令和2年2月現在）

○柏陽東町内会 ○北栄町内会

2. 地域版避難所運営マニュアル

長期間の避難を余儀なくされるような大規模災害が発生した際に、町内会・自治会や自主防災組織、避難者、施設管理者等が協力し、円滑な避難所運営や良好な生活環境を確保するための標準的なマニュアル（「恵庭市避難所運営マニュアル」）を平成29年3月に作成。

平成29年度からは、地域や避難所の実情に応じて必要な内容を加えた避難所ごとの「地域版避難所運営マニュアル」の作成に向けた取り組みを進めている。

《令和元年度の取り組み状況》

1. 島松地区（島松小学校）を対象として、学習会を開催。

- ① 第1回防災学習会（令和元年1月29日）
- ② 第2回防災学習会（令和元年12月8日）
- ③ 第3回防災学習会（令和2年2月7月予定）

2. 恵庭南高等学校を対象として、地域主体で作成（令和元年12月完成）

《これまでの取り組み状況》

- ・平成29年度 柏陽中学校版作成
- ・平成30年度 恵庭中学校版作成



3. 1日防災学校

防災教育を通して児童生徒の「生きる力」、「想像力」を育むと共に、学校・地域・行政の連携による地域防災力の向上を図る。令和元年度は、柏陽中学校と恵庭中学校で実施した。

①柏陽中学校

実施日	令和元年 10 月 26 日（水）
参加人数	柏陽中学校教職員・児童（274 名）、コミュニティ・スクール・主任児童委員・保護者・町内会・防災マスター（128 名）、若草小学校（10 名）
参加機関等	北海道、陸上自衛隊、岩手大学教育推進機構グローバル教育センター松岡洋子教授
授業概要	防災講話「やさしい日本語講座」、D o HUG 体験、防災食調理体験、避難所開設体験シミュレーション

②恵庭中学校

実施日	令和元年 12 月 7 日（土）
参加人数	恵庭中学校教職員・生徒（455 名）、保護者・町内会・防災マスター(30 名)
参加機関等	北海道、陸上自衛隊、ソフトバンク、合同容器(株)、 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 長田 徹 氏
授業概要	防災講話「東日本大震災の経験から」、段ボールベッド体験、新聞紙スリッパ作成、自衛隊による炊き出し支援と配膳訓練

<事業の展望>

- ・学校や地域における防災教育をより一層充実し、一人ひとりが自然災害を正しく理解し、自らの的確な判断の元で、防災・減災行動が取れるよう啓発していく。
- ・学校・地域・行政が各自の立場において、専門性を発揮し、日頃から連携・協働を広め強めていくことにより、災害に強い地域社会を目指す。

4. 市民の広場（テーマ：みんなで地域防災）

平成 26 年度より、テーマに沿って地域と将来のまちづくりに向けた意見交換・懇談の機会として実施しており、今年度は、「みんなで地域防災」をテーマに胆振東部地震を振り返ってワークショップ形式で意見を出し合い、自助・公助・共助について市民の方と議論を深めた。

《日 時》

- ①令和元年 7 月 10 日(島松地区)
- ②令和元年 7 月 11 日(恵庭地区)
- ③令和元年 7 月 23 日(恵み野地区)
- ④令和元年 7 月 24 日(恵庭地区)

